令和５年９月作成

繰上補充が行われた事例について

記述編Ⅱから抜粋する。なお、会派名や議員名は「＊＊」で表示する。

----------------------------------------------------------------------------

相模原市議会史 記述編Ⅱ 265ページ～

１　昭和４２年４月の市議会議員選挙

多くの革新自治体を生んだ第6回統一地方選挙の一環として、相模原市議会議員選挙は、昭和４２年4月１８日に告示され、２８日に投票が行われた。県内では、川崎市、横須賀市など９市の市議会議員選挙が行われた。この選挙と同時に、川崎市、平塚市など４市の市長選挙も行われた。なお、全国では統一地方選挙に該当する市議会議員選挙は３５９市、市長選挙は１５４市であった。

新人が１９人

相模原市議会議員の選挙時の有権者は、前回３８年より４万６０００人も増え、１１万６８７９人であり、このうち７万９２９１人が投票し、その投票率は６７．８％である。前回の８０．２％比べると、１２．４ポイント減と大きく減少している。議員選挙の投票率は、これ以降７０％を上回ることはなかった。なお、統一地方選挙における全国市議選（指定市議を除く）の投票率は７７．９％であり、初めて８０％台を割り込んでいる。

　前回の選挙においては、議員の定数は３０人であったが、この選挙により６人増の３６人である。４０年の国勢調査により人口は１６万人であるため、地方自治法（第９１条）に定められた定数は４０人である。したがって市の議員定数条例により、これを３６人と定め、法定数４０人より４人減員している。

　今回の選挙では、定数３６人のところに４９人が立候補しており、競争率は１．４倍である。前回の選挙の競争率は１．６倍であり、つぎの４６年の選挙では１．３倍となっている。当選議員の新・前・元別では、新人が１９人と多く、５３％と５割を超えている。新人は、

前回の選挙では１８人で、率にすると６０％、次回の選挙では１０人で率にすると２５％であり、人数では最も多いといえる。新人の占める割合の５３％も、全国平均が３５％であることからすれば極めて高いものである。そして、残る１７人の前・元議員のうち、２期目が１２人、３期目が３人、４期目が１人、５期目が１人と期数の少ない議員が多い。

　当選議員の平均年齢は、５１．６歳であり、前回の選挙４８．１歳に比べ、３．５歳も年を取っている。しばらくのあいだ、選挙を重ねるごとに議員の平均年齢は高くなっていく。議員の最高年齢は６７歳、最低年齢は３７歳であり、いずれも前回よりも年齢を加えている。

　４２年の議員選挙のあと、同年５月１２日に＊＊議員（＊＊）が交通事故で死亡した。このため、公職選挙法の「３か月以内に欠員を生じた場合、当選人の繰上補充をする」との規定により、５月１８日、＊＊（＊＊）が議員となった。その後、４２年１２月６日、＊＊議員（＊＊）が地方自治法１２７条により失職し、欠員一人が生じた。

相模原市議会史 記述編Ⅱ 290ページ～

１　第９９臨時会（昭和４２年５月１５日）

　新人が多く（１９人）当選した市議会議員選挙後初めての議会は、第９９臨時会として、会期１日限りで５月１５日に開会された。この臨時会は、議長・副議長など議会役職員を選任するものである。

　日程に入る前に、１２日に死亡した＊＊議員（＊＊）に黙とうがささげられ、＊＊議員（＊＊）から追悼の言葉が述べられた。

２　第１００定例会（昭和４２年６月２６日～２７日）

　５月の臨時会のあと、選挙後初めての定例会は、第１００定例会として、６月２６日、会期２日間で開会された。

　２６日の初日、日程に入る前に、＊＊議員死亡（５月１２日）にともない、公職選挙法の規定により繰上げ当選になった＊＊議員（＊＊）の紹介がなされた。

【相模原市議会第１００定例会会議録　第１号　昭和４２年６月２６日】

○議長

　日程に入る前に、（中略）当選人となられました＊＊議員を御紹介申し上げます。５番。

○５番

　ただいま御紹介にあずかりました＊＊でございます。

　５月の１２日に＊＊議員が惜しくも交通事故のためなくなられ、私が繰り上げ当選となり、５月１８日に当選の証書をいただきました。（以下略）